

書誌第102号追

本州北西岸水路誌

追補第3

令和5年（2023）7月14日発行



海上保安庁

本州北西岸水路誌

追補第3

この追補は、令和4年3月刊行の本州北西岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和5年6月16日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和5年7月14日

海上保安庁海洋情報部

注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所(表題、港名等)	備考
31	本州北西岸 目標	
32	本州北西岸 目標	
36	本州北西岸針路法図	
41	針路法 津軽海峡西口～津軽海峡東口	
56	萩港	追補第1の当該ページは無効
72	西ノ島	
81	境港	
82	境港	
101	宮津港	
104	舞鶴港	追補第2の当該ページは無効
105	舞鶴港	
114	敦賀港	
117	福井港	
141	伏木区及び付近	
147	生地鼻～直江津港	
149	直江津港	
150	直江津港	追補第1の当該ページは無効
158	西区及び付近	
172	酒田港	
175	秋田船川港	
177	秋田区	追補第2の当該ページは無効
178	秋田区	
179	船川区	
182	能代港	
184	壱作崎～龍飛崎	
191	青森港	

佐渡島付近	対馬暖流は、一般に佐渡島の北岸沖合を流速 0.5~1kn で北東へ流れている。一方、能登半島の北岸を東に向かう流れは、能登半島～佐渡島の間を経て、佐渡海峡に流入したあと東北東へ向かう。また、その一部が反流となって富山湾へ南下するが、いずれも不安定な流れで、流向・流速とも一定しない。夏季は流速を増し、特に、佐渡島の北岸沖合の流れは 1kn を超える場合が多くなる。
新潟港～入道埼	対馬暖流の主流は、主として佐渡島と男鹿半島とを結ぶ線の北側を北上し、流速は 0.3~1.5kn 又はそれ以上に達する。その線の南側においても粟島と飛島とを結ぶ線から北側には 0.3~1.5kn の北北東流が見られる。特に、飛島付近は流速が強く、1~1.7kn の北東流がしばしば見られる。粟島と飛島とを結ぶ線から南側は、一般に北北東の流速 0.3~1kn 又はそれ以上に達し、新潟港～大島埼間、象潟港～秋田船川港間の海岸近くには微弱な反流が南下しており、飛島付近に南東流のあるときは、入道埼付近には西方へ向かう流れが見られる。
入道埼～鱸作埼	対馬暖流の主流は、距岸 30M 付近を流速 0.5~1.5kn で北流しているが、時には 2.5~3.0kn の流れを生ずることもある。久六島の東側では、流向はやや東寄りになり、季節風の強いときには陸岸に圧流されやすい。能代港付近の沿岸では、微弱な反流が南下しているようである。
鱸作埼～龍飛埼	久六島付近で北上する対馬暖流から分かれた一つの分枝は、鱸作埼の沖合約 10M を流速 0.5~2.5kn で北北東へ流れ、しだいに東寄りとなってその流速を増し、小泊岬の北西方において北東流となり、流速 0.5~4kn となって津軽海峡に流入し、津軽暖流となる。

目 標

地 物 名	概 位	備 考
蓋井《フタオイ》島	34° 06.3' N 130° 46.8' E	北西部に三つの峰（最高峰の高さ 252m）がある島で、南西端の鐘ヶ埼に灯台がある。同埼北方の高さ 148m の山は、全山が樹木に覆われ頂に松が生えている。
角《ツノ》島	34° 21.7' N 130° 52.7' E	高さ 66m の島、西側の夢ヶ埼に灯台がある。
見 島	34° 46.3' N 131° 08.3' E	島頂が西岸中央部にある高さ 175m の島、北端の長尾ノ鼻と南端に灯台があり、島頂に顕著なドームがある。
高《コウ》山	34° 39.1' N 131° 36.8' E	高さ 533m、西方からは円峰に見える。
高 島	34° 50.1' N 131° 50.3' E	高さ 117m の小島、灯台がある。沿岸航行の好目標。
日 御 碕	35° 26.0' N 132° 37.8' E	出雲日御碕灯台があり、岬の付近は大小の岩が散在する景勝地。
多 古 鼻	35° 36.1' N 133° 05.1' E	がけの岬、東方約 600m に灯台がある。この鼻の西方至近に六ツ島（高さ 25m）がある。
地 蔵 埼	35° 34.0' N 133° 19.5' E	埼上に美保関灯台がある。
白 島 埼	36° 20.9' N 133° 16.6' E	島後北端、付近に灰色の岩小島が数個ある。南方に灯台がある。
白 埼	36° 10.3' N 133° 20.4' E	島後南東端、灯台がある。
大山《ダイセン》	35° 22.3' N 133° 32.8' E	高さ 1,729m で、円すい形を成し、中国地方の最高峰。遠望顕著で美保湾発見の好目標。夏季は頂が雲に隠れていることが多い。
長 尾 鼻	35° 32.2' N 134° 00.4' E	北方へ約 1M 突出する樹木の茂った高さ 81m の岬角で、岬上に灯台があり、東方からは鳥の尾のように見える。
経 ケ 岬	35° 46.6' N 135° 13.4' E	円頂で顕著。灯台がある。
越 前 岬	35° 58.9' N 135° 57.7' E	先端はがけで、灯台がある。
富士写ヶ岳	36° 11.3' N 136° 21.8' E	高さ 942m の著峰で、西方からは三つの鋭峰に、北方からは一つの鋭峰に見える。
猿 山 岬	37° 19.4' N 136° 43.3' E	頂の猿山（高さ 332m）は顕著。灯台がある。
高 洲 山 《コウノスサン》	37° 23.2' N 136° 57.6' E	高さ 567m、付近の最高峰で、頂に顕著なドーム（薄緑色で白灯を点ずる）がある。
七 ツ 島	37° 36.0' N 136° 52.7' E	北東～南西方向へ約 3M にわたり広がる 2 群の岩島。アシが密生し、樹木はない。

嫁礁《ヨメグリ》	37° 40.3' N 137° 12.5' E	南北方向へ約 1M 続く岩礁の中央部にある群岩。最高岩 (高さ 0.3 m) 上に灯台があり、かなりの遠距離から見える。
禄剛崎	37° 31.7' N 137° 19.6' E	崎上に灯台がある。
沢崎鼻	37° 49.3' N 138° 12.3' E	佐渡島南西端のがけの岬で、灯台がある。
弾《ハジキ》崎	38° 19.9' N 138° 30.8' E	佐渡島北東端のがけの崎で、灯台がある。
弥彦山	37° 42.3' N 138° 48.6' E	高さ 634m の円すい形峰で、北方からは一つの峰に見える。山頂に無線塔がある。
栗島	38° 27.2' N 139° 14.3' E	島頂の 小柴山 (高さ 266m) は島の中央からやや南寄りにあり、灯台がある。西岸はほとんど岩海岸で、東岸は群石岸が多い。
飛島	39° 12.0' N 139° 33.4' E	平低な島で、北部の 高森山 の頂に灯台がある。
鳥海山	39° 06.0' N 140° 02.9' E	高さ 2,236m、南方からは三つの頂に、北方からは二つの頂に見える円すい形の峰で、沖合遠距離から見える。頂は雲に隠れていることが多い。8、9月を除き雪の消えることがない。
本山《ホンサン》	39° 54.4' N 139° 45.2' E	男鹿半島の最高峰 (715m) で顕著。1基のレーダドームがある。
入道崎	40° 00.3' N 139° 42.1' E	険しい岬角上に灯台がある。この崎の北方約 800m に 水島 (高さ 3.7m の岩島) があり、中央部にある白塗柱は入道崎灯台に付設の照射灯で照らされる。
鱸作《ヘナシ》崎	40° 36.2' N 139° 51.7' E	険しいがけの崎で、灯台がある。崎端にある高さ 57m の小丘は遠くから小島のように見え、南北方向から顕著である。
小泊岬	41° 07.5' N 140° 15.0' E	顕著な岬。奇形で龍飛崎まで続く高地の起点で見分けやすい。西側は赤色のがけで、南・北両端に灯台がある。岬の外端近くに 尾崎山 (高さ 230m、樹木の茂った円形の山) がある。
龍飛崎	41° 15.5' N 140° 20.5' E	津軽海峡の西口南端、灯台がある。崎の北東方約 300m に 帯島 (高さ 35m の岩島) がある。

目標

地物名	概位	備考
龍飛埼	41° 15.5' N 140° 20.5' E	津軽海峡の西口南端、灯台がある。埼の北東方約300mに帯島(高さ35mの岩島)がある。
高野埼	41° 13.7' N 140° 32.9' E	内方の樹木の茂った山から突き出た平低な岩の岬、灯台がある。
明神埼	41° 10.5' N 140° 38.6' E	平館灯台がある。
大間埼	41° 32.8' N 140° 54.8' E	平低なサンドスピット、埼の北方約300mにゲンベイ礁灯標があり、更にその北方約500mに 弁天島 (高さ14m、島上に大間埼灯台がある)がある。
尻屋埼	41° 25.8' N 141° 27.7' E	平低な埼、埼上に灯台、照射灯があり、埼の南南西方約5kmに二つの頂の 桑畑山 (高さ400m)がある。

上表のほか、海峡北側に目標として、小島、弁天島、白神岬、矢越岬、葛登支岬、汐首岬、恵山岬(各灯台がある)がある。レーダを使用すれば海峡内の地形を容易に判別できる。

針路法(第7図参照)

1 津軽海峡西口～津軽海峡東口

(1) 龍飛埼灯台《41° 15.5' N 140° 20.5' E》の北北西方約5.5M付近から東航する場合

	変針目標及び概位	変針点及び針路	その他
イ	龍飛埼灯台 41° 15.5' N 140° 20.5' E	北西方約5.5 M 054°	汐首岬灯台(41° 42.7' N 140° 57.8' E)に向首する。
	※陸奥湾へ向かう場合		
	龍飛埼灯台	北西方約5.5 M 105°	
	平館灯台(明神埼) 41° 10.5' N 140° 38.6' E	北方約6 M 145°	平館海峡に入る。
	平館灯台(明神埼)	東方約3.5 M	以後針路適宜にて、湾内各港へ
	※函館港へ向かう場合		
龍飛埼灯台	北西方約5.5 M 050°		
矢越岬灯台 41° 31.0' N 140° 24.5' E	正横約4.5 M 025°	葛登支岬灯台(41° 44.5' N 140° 36.0' E)の東方約2Mの所に向かう。	
ロ	大間埼灯台 41° 33.3' N 140° 54.7' E	正横約6 M (大間埼灯台を144°に見る)	汐首岬灯台から南方約4Mの地点に向かう。
	※襟裳岬沖へ向かう場合		
	大間埼灯台	正横約6 M 085°	襟裳岬灯台(41° 55.5' N 143° 14.6' E)の南方約9Mに向かう。
	※室蘭港、苫小牧港方面へ向かう場合		
大間埼灯台	正横約6 M 085°		
汐首岬灯台	南方約4 M 055°	恵山岬灯台(41° 48.9' N 141° 11.0' E)の南東方約3Mに向かう。	
ハ	汐首岬灯台	正横約4 M 110°	尻屋埼灯台(41° 25.8' N 141° 27.7' E)の北北東方約4.5Mに向かう。

針路法

1 西方から

相島の南方約 1.8M の所から、針路 090° で羽島北端に向首して進み、尾島の西端正横から針路 130° で港の中央に向かうとよい。この場合、ツバ瀬 (34° 26.1′ N 131° 21.1′ E、灯標がある、最小水深 1.7m) 及び観音喰合瀬 (34° 26.7′ N 131° 23.3′ E、灯浮標がある) に注意を要する。また、この針路は、田床山山頂のテレビ塔と萩港浜崎北防波堤灯台とのほぼ見通し線上にある。

2 北方から

相島、尾島間のほぼ中央を南下し、以後 1 の針路法による。

3 東方から

櫃島～大島、肥島～大島間及び肥島～羽島間のほぼ中央を適宜通過し、港口中央に向かう。また、尾島～肥島間は、ほぼ中央に羽島礁 (34° 29.1′ N 131° 21.5′ E) (水深 3.6m) があるので通航しないほうがよい。

入港上の注意 船引き網漁業が行われ、狐島の東方の潟港 (34° 26.4′ N 131° 25.1′ E) 入口付近及び松ヶ鼻西側 (34° 25.6′ N 131° 24.1′ E) 浜崎商港入口北側付近で、操業することがあるので注意を要する。

水先 水先法という水先区ではないが、潟港に 4,000 t 級の木材船が入港する場合は、関門水先区水先人会 (TEL:093-332-2384) が要請に応じる。水先人乗船地点は、笠山の南西方 1.1M 付近である。

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (t× 隻)	備考
- 4m 岸壁	34° 25.7′ N 131° 24.9′ E	延長 445	2~3	-	萩 (中小畑) 漁港、突堤南側
潟港岸壁	34° 26.2′ N 131° 25.2′ E	110	5~6.5	3,000×1	
- 4m 物揚場		38	5.5	-	潟港岸壁の東側
- 4m 岸壁	34° 26.8′ N 131° 24.6′ E	157	3.5~4	-	萩 (越ヶ浜) 漁港

錨地 小畑浦、中小畑浦及び菊ヶ浜前面は底質が泥又は細砂であるが、北西の風が 10m 以上になると走錨のおそれがある。

潟港の中央部は四方の風を防ぎ避泊地として最適であるが、狭いので錨泊する船舶は 500 t 程度が限度である。

台風・津波等の異常気象時の対策 本港では、台風・津波襲来時等、異常気象時における事故を未然に防止するため、萩港台風等対策協議会が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定めている。

また、異常気象時においては、港長から、異常気象時における各船舶がとるべき措置について、港則法に基づく勧告等がなされることがあることから、留意すること。(問合せ先：萩海上保安署)

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
萩海上保安署 (港長)	0838-22-4999	門司税関下関税関支署萩出張所	0838-25-5120

補給 清水の補給ができる。給油船がある。

医療施設

名称	電話番号	備考
萩市民病院	0838-25-1200	

海上交通 見島、相島及び大島に至る旅客船便またはカーフェリー便があり、浜崎商港から発着している。

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W× 隻)	備考
1号岸壁	36° 01.5' N 133° 02.4' E	136	5	—	大島の西方対岸
2号岸壁	36° 01.6' N 133° 02.3' E	50	—	—	1号岸壁北側
3号岸壁	36° 01.6' N 133° 02.3' E	30	—	—	2号岸壁北側
4号岸壁	36° 01.6' N 133° 02.3' E	145	—	—	3号岸壁北側

上表のほか、泊地南東奥の船だまりに物揚場がある。

海上交通 境、七類港及び隠岐諸島の各港に至るカーフェリー便（2,375 t ほか）及び高速船がある。

西ノ島 (36° 06.0' N 132° 59.4' E) (海図W1189)

概要 島前の最大島で、低い地峡を通る小運河によって東、西に二分されている。島の西側と北側は険しいがけで、おおむね急深であるが、所々に岩礁が沿布する。

別府湾 (36° 06.2' N 133° 03.4' E) 中井口に面した西ノ島東岸の湾で、各種船舶の好泊地である。

湾奥の**見付島**（樹木が密生）の東方で水深20m、底質泥の所が錨地に良い。

黒木崎 (36° 06.7' N 133° 02.7' E)（頂部付近に神社がある）は、見付島の北北東方対岸にあり、見付島とともに樹木の密生した好目標である。

湾内には海草が多いという。

湾奥北部に別府港があり、定期船が出入りする。

目標

地物名	概位	備考
三度《ミタベ》埼	36° 04.0' N 132° 56.8' E	灯台がある。
黒島鼻〔赤灘鼻〕	36° 02.3' N 132° 59.9' E	赤灘口北側の岬角、先端に黒島（灯台がある。）がある。
麦山鼻	36° 03.8' N 133° 01.4' E	灯台がある。
焼火《タクヒ》山	36° 04.5' N 133° 01.9' E	高さ452m（島の最高峰）、頂に3基のテレビ中継塔（赤白塗2基及び銀色塗）がある。
高崎山	36° 07.8' N 133° 01.6' E	高さ435m
冠島	36° 08.3' N 133° 05.5' E	高さ94m、北・東両岸は絶壁で、南西方に向かって緩傾斜している。

境 港 (35° 32.1′ N 133° 15.3′ E) (海図W1178) (JP SMN)



(2020年6月撮影)

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物防疫の港、重要港湾

概要 美保湾の北西部にある港で、港内は美保湾に面した港口から中海北部まで第2区、第1区、第3区の順に3区に分かれ、第1区の南側中央部に**境漁港**がある。

航路が港口から境水道大橋付近まであり、航路の南側にある埋立地のうち北側は外港昭和北地区、南側は外港昭和南地区と通称されている。

この港は、日本海沿岸の交通の要衝として発達してきたが、中海地区が新産業都市に指定されたことにより、更に発展し、港湾の整備が進められている。近年、急増するクルーズ船の入港にともない、外港竹内南地区貨客ターミナルが令和2年4月から供用を開始している。

港の北岸は島根県、南岸は鳥取県であるため、両県の協定による境港管理組合が港湾を管理している。

潮汐 この港における平均高高潮は0.3m、平均低低潮は0.1m、平均水面は0.17mである。

副振動 この港には、30～50分を周期とする海面の昇降があり、その昇降は0.5mに達することがある。

潮流 境港の潮流は、西（東）流は低（高）潮の約2時間後から高（低）潮の約2時間後まで流れる。境水道大橋の東方約400mの所では、高（低）潮の約1時間前に西（東）流最強となる（第10図 境港潮流図参照）。

目標

地物名	概 位	備 考
嵩山《ダケサン》	35° 29.2′ N 133° 06.4′ E	高さ331m、港外から顕著
高尾山	35° 33.6′ N 133° 14.4′ E	高さ328m、山頂に顕著な緑色のレーダドーム（高さ356m）がある。
記念碑	35° 33.7′ N 133° 18.2′ E	高さ133mの山頂付近にある。
サイロ	35° 33.0′ N 133° 15.5′ E	3基、灰色、セメント用
境水道大橋	35° 33.0′ N 133° 14.7′ E	高さ41～44m、橋梁灯がある。
鉄塔（架空線）	35° 32.9′ N 133° 14.8′ E	高さ85m（北）・87m（南）、赤白塗、赤灯を点ずる。
パラボラアンテナ	35° 32.7′ N 133° 13.8′ E	NTT屋上、赤白塗
去ルガ鼻山	35° 31.8′ N 133° 11.5′ E	高さ98m
著 屋	35° 30.8′ N 133° 15.0′ E	白色、8階建、ホテル
著 屋	35° 31.2′ N 133° 15.6′ E	全面ガラス張り、高さ43m
江島大橋	35° 31.1′ N 133° 12.0′ E	高さ33m、橋梁灯がある。

架橋 境水道大橋（高さ41～44m）及び江島大橋（高さ33m）（目標の項参照）がある。

架空線 境水道大橋東側に架空線（高さ39m）がある。

航路 境港防波堤灯台(35° 33.1' N 133° 16.3' E)の東北東方約0.5Mから境水道大橋の東側の間に、法定航路（長さ約1.7M、幅約160m、水深6.2～14m）がある。さらに、同航路から西方の第3区、中浦水道付近まで、水路（水深7.5～9m）がある。

針路法

第1区及び第3区へ入港する場合

- 1 美保関灯台(35° 34.0' N 133° 19.5' E)の南方1M付近から、境港第1号及び第2号灯浮標間のほぼ中央を273°で向首し、法定航路に入る。
- 2 防波堤灯台付近で徐々に左転し、境港指向灯を255.5°に向首して進む。
- 3 水路中央よりやや北側を進み目的地に進む。

第2区外港昭和南地区へ入港する場合

上記1の針路法で航路内へ入った後徐々に左転し、境港中野東防波堤灯台(35° 31.9' N 133° 15.0' E)を227°に向首して進む。

入港上の注意

- 1 航路入口付近は可航水域が狭く漁船や危険物積載船錨地及び検疫錨地からの入港船など、出入港船舶が集中するので、衝突事故に対して、特に注意すること。
- 2 港内は、潮流の変化が激しく、岸壁係留中の大型船等の影響を受けて微妙に変化する。
- 3 南～西南西の風が強く吹くときは、北方へ圧流されて陸岸に寄せられ、北東風の強く吹くときは、風下に大きく圧流されて、針路保持が困難になることがある。
- 4 第3区の南側港界付近に米子空港で離発着する航空機のために「航空機進入表面区域」が設けられ、船舶のマスト等の安全高さに注意が必要である（海図W1174参照）。
- 5 地蔵崎と美保関漁港の間には定置網が設置されているので、入出港する際は注意を要する。

水先 境水先区水先人会に要請する（第1編総記第6章水先参照）。

通信 船舶と港長との間で、無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	周波数 (呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先
まいづるほあん MAIZURU COAST GUARD RADIO	16/12ch	常時	境海上保安部（港長）

航泊制限 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー（タンク船を含む）から30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間でも容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W× 隻)	備考
昭和北1号岸壁	35° 33.0' N 133° 15.8' E	140	4.5～5.5	700×2	ジブクレーン1基
昭和北2号岸壁		220		700×2	
昭和南1号岸壁	35° 32.3' N 133° 15.2' E	270	13	40,000×1	
昭和南2号岸壁		185	10	15,000×1	
昭和南3号岸壁		130	8	5,000×1	
昭和南4号岸壁		280	13～14	50,000×1	

宮 津 港 (35° 33.1' N 135° 11.9' E) (海図W118 分図) (JP MIY)



(2020 年 8 月 撮 影)

港種 特定港、開港、出入国港

概要 若狭湾西部にある宮津湾の大半を占める港である。港内は、第 1 区～第 4 区に分かれ、港奥の第 2 区南側に係船施設がある。第 4 区の阿蘇海 (35° 34.0' N 135° 10.5' E)は、天橋立の南端にある文珠水道 (長さ 840m、幅 30m、水深 2～3mで水道北部に旋回橋が架設されている) によって外海に通じている。

港内中央部は、15m以上の水深があって、航行の障害となるものはない。

気象 舞鶴港の気象の項参照。

潮流 港内の潮流は微弱である。

目標

地物名	概 位	備 考
黒 埼	35° 35.9' N 135° 15.3' E	灯台がある。
妙 見 山	35° 36.2' N 135° 13.5' E	樹木の密生した小さな丘で高さ 30m
片 島 鼻	35° 35.2' N 135° 13.8' E	鼻頂は小さな丘、鼻の両側は砂浜で鼻端は険しいがけ、遠方からは離れ島のように見える。
著 屋	35° 33.3' N 135° 11.1' E	旅館、至近に観覧車及びケーブルカーがある。
滝 上 山	35° 32.5' N 135° 11.2' E	高さ 120m、展望台がある。
無 線 塔	35° 32.2' N 135° 11.9' E	パラボラアンテナ付、NTT 屋上
無 線 塔	35° 32.3' N 135° 12.4' E	高さ 74m、赤白塗

針路法 湾口中央から文珠南方の著屋(目標の項参照)を向首目標として針路 222° で進入し、蓬萊岩 (35° 33.8' N 135° 12.5' E)正横で変針し、宮津駅の北西方にある無線塔に針路 182° で進み、獅子崎鼻正横付近から適宜の針路で岸壁に向かう。

水先 水先法にいう水先区ではないが、舞鶴水先区水先人会が要請に応じる。乗下船は黒埼沖で行う。

(第 1 編総記 第 6 章水先参照)

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (約m)	水 深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
鶴賀第 1 ふ頭岸壁	35° 32.2' N 135° 12.1' E	204	5	1,000×2	
鶴賀第 2 ふ頭岸壁	35° 32.3' N 135° 12.2' E	242	4	1,000×3	

上表のほか、島崎、住吉各物揚場及び漁協棧橋などがあるが、前面は浅い。

無線柱	35° 28.5' N 135° 23.4' E	高さ 69m
煙突	35° 30.0' N 135° 24.1' E	高さ 81m、赤白塗
煙突	35° 31.9' N 135° 20.7' E	高さ 257m、赤白塗
コンテナクレーン	35° 28.3' N 135° 19.8' E	高さ 60m、赤白塗、移動式

航路 ~~金ヶ岬と黒鼻の中間付近から戸島北岸に港口の金ヶ岬東方付近から南東方の三本松鼻 (35° 30.3' N 135° 20.6' E) 付近に至り、ここから2つに分岐し戸島の西側を通り伊埼付近に至るものと、戸島の北側を通り、烏《カラス》島付近に至るものがあり、いずれも法定航路である。~~

針路法 西港に入港する場合は、戸島の東端と三本松鼻灯台とを一線 (155.5°) に見て航路に入り、牛糞《ウシクソ》鼻 (35° 30.9' N 135° 20.7' E) 正横後、針路 190° に変針して、戸島北端の荊《イバラ》埼 (35° 29.9' N 135° 20.4' E) に正横後、航路を通り岸壁に向かう。

東港に入港する場合は、上記の針路にて航路に入り、牛糞鼻に正横後荊埼に針路 175° で向首して進み、三本松鼻を大回りして東方へ向かい、戸島東端を航過後、針路 088° で進み、烏島に正横後適宜岸壁に向かう。

なお、第3区内の距岸約 400m以内には、各所にトリ貝、カキなどの養殖施設がある。

また、三本松付近にて、出入港船と出会うことがあるので注意を要する。

通信 船舶と港長との間で、無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	周波数 (呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先
まいづるほあん MAIZURU COAST GUARD RADIO	16/12ch	常時	舞鶴海上保安部 (港長)

架橋 第3区の黒鼻 (35° 30.5' N 135° 23.5' E) から対岸に舞鶴クレインブリッジ (35° 30.6' N 135° 23.3' E、高さ 24m) がある。

水先 舞鶴水先区水先人会に要請にする。(第1編総記 第6章水先参照)

航泊制限 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー (タンク船を含む) から 30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間でも容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

港湾施設

西港

名称	概位	長さ (約 m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考	
第2 ふ頭	1号岸壁	35° 27.4' N 135° 19.3' E	130	7.5	5,000×1	
	2号岸壁	35° 27.4' N 135° 19.2' E	185	9	15,000×1	ガントリークレーン
	3号岸壁	35° 27.3' N 135° 19.3' E	165	9.5	10,000×1	
	4号岸壁	35° 27.2' N 135° 19.3' E	165	9.5	10,000×1	
第3 ふ頭	1号岸壁	35° 27.2' N 135° 19.2' E	185	8.5~9	15,000×1	北側(150m)は護岸 で係船できない。
	2号岸壁	35° 27.2' N 135° 19.1' E	185	8.5~9	15,000×1	
第4 ふ頭	-10m岸壁	35° 27.1' N 135° 19.0' E	185	8.5	15,000×1	
	-5.5m岸壁	35° 27.2' N 135° 18.8' E	300	3~3.5	1,000×3	
喜多 ふ頭	1号岸壁	35° 27.6' N 135° 19.0' E	130	8	5,000×1	
	2号岸壁	35° 27.7' N 135° 19.0' E	240	12	30,000×1	

大君ドルフィン	35° 28.4' N 135° 19.2' E	—	10	15,000×1	旧大君貯木場前面
平ドルフィン	35° 30.3' N 135° 23.4' E	—	10	15,000×1	
舞鶴国際ふ頭1号岸壁	35° 28.3' N 135° 19.8' E	280	14	50,000×1	



(2015年7月撮影)

東港

名称	概位	長さ (約 m)	水深 (約 m)	係船能力 (D/W× 隻)	備考
前島ふ頭	1号岸壁	35° 28.8' N 135° 23.6' E	130	6.5~7	5,000×1
	2号岸壁	35° 28.9' N 135° 23.5' E	260	9	8,000×1 フェリーターミナルがある。
	3号岸壁	35° 28.9' N 135° 23.4' E	180	5	2,000×2



(2015年7月撮影)

最大入港船舶 2019年9月11日、客船SPECTRUM OF THE SEAS (168,666 t、喫水8.8m)が舞鶴国際ふ頭1号岸壁に着岸した。

係船浮標 第2区入口付近に4基(海上自衛隊専用)があり、第3区鳥島南東方約350mに2基(ジャパンマリンユナイテッド(株)専用)がある。

錨地 この港は四方の風を防ぎ、底質はおおむね泥で錨かきは良い。危険物積載船が錨泊する時は、第3区に錨泊しなければならない。

障害物 常宮湾に多数の険悪物がある。

入港上の注意 港口から港奥までの水深は深く、地形が分かりやすいので、昼夜とも容易に入港できる。しかし、湾口の西側及び東岸には定置網があるので、注意が必要である。浦底湾に入る場合は、湾口の灯浮標 (35° 44.0' N 136° 02.6' E) を完全にかわしてから湾の中央部を通航する。

航泊制限 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー (タンク船を含む) から 30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間でも容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考	
鞍山北岸壁	A	35° 40.5' N 136° 04.5' E	130	7.5~12	5,000×1	
	B		240	12	30,000×1	
	C	35° 40.7' N 136° 04.3' E	240	12~14	30,000×1	
	D		240	9.5	20,000G/T×1	カーフェリーが発着
鞍山南A岸壁	A	35° 40.1' N 136° 03.9' E	280	14	50,000×1	クレーン 12基
金ヶ崎岸壁	C	35° 39.8' N 136° 04.2' E	170	9	10,000×1	
	D		130	7.5	5,000×1	
桜岸壁	E	35° 39.6' N 136° 04.3' E	100	4~6	2,000 G/T×2	
	F		90			
蓬萊岸壁	G	35° 39.6' N 136° 04.1' E	390	6~7	6,000 G/T×3	
	H					
	I					
川崎松栄岸壁	A	35° 39.6' N 136° 03.9' E	200	7~7.5	10,000 G/T×1	
	B	35° 39.7' N 136° 03.7' E	370	8.5~9.5	15,000 G/T×2	クレーン 1基
	C					

上表のほか、鞍山北岸壁の南側に北陸電力・敦賀セメント共同岸壁 (係船能力 60,000D/W×1) 及び巡視船専用岸壁等がある。

水先 水先法という水先区ではないが、水先の要請は敦賀海陸運輸(株) (TEL 0770-22-3111) が連絡取り次ぎを行う。

最大入港船舶 2018年4月17日、客船 DIAMOND PRINCESS (115,875t、喫水 8.5m) が鞍山北岸壁に着岸した。

錨地 常宮湾は、水深 20m前後、底質泥で錨かきが良く、小型船向きの好錨地である。

浦底湾は、南東風の強吹時を除き、中央部の水深 20m前後、底質泥の所が良く、500 t 級船舶が錨泊できる。

検疫錨地は、常宮湾口にある。危険物積載船が錨泊する時は、検疫錨地及び敦賀港第 2・4 区 (鞍山防波堤先端から 0.6 海里以内及び同先端から真方位 0 度に引いた線以西を除く) で陸岸から安全距離を確保した場所に錨泊しなければならない。

錨泊上の注意 湾内東岸及び西岸の 500m 沖合までは、小型定置網及び養殖筏等が多数設置されている。また北寄りの風の強吹時は、常宮湾又は浦底湾に避泊するとよい。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、敦賀港事故防止連絡協議会 台風・津波等対策委員会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している (問合せ先: 敦賀海上保安部)。

第5節 越前岬～禄剛埼 (海図W159)

越前岬～安島岬 (海図W139)

概要 越前岬～安島岬間の約18Mの北半部は、砂浜で、その北端、**九頭竜川**河口に福井港がある。中部に**鷹巣港**がある。

目標

地物名	概位	備考
大 埼	36° 05.7' N 136° 01.8' E	樹木が茂る。
亀 島	36° 07.5' N 136° 03.1' E	高さ45mで平頂
安 島 岬	36° 15.1' N 136° 07.1' E	西方に突出し、その西方にある 雄島 (高さ42m、灯台がある)と橋で続き、各方向から顕著である。

福 井 港 (36° 12.5' N 136° 06.9' E) (海図W1184) (JP FKJ)



(2020年8月撮影)

港種 特定港、開港

概要 九頭竜川河口及びその南側にある港湾で、**三国区**と**福井区**の2港区に分かれている。

福井区は、築造中の掘込式港湾で、福井石油備蓄基地などがあり、福井臨海工業地帯の中核として整備が進められている。~~三国区にある三国防波堤先端部が一部損壊し、瓦礫が水没している。~~

気象 4～9月中旬までは、一般に天気が良く、7、8月は海上平穏である。年間を通じて、南寄りの風が多い。12月～翌年2月は北西風の強い日が多く、海上の最も荒れる時期である。

潮流 三国区沖合の上げ(下げ)潮流は北(南)方へ流れ、流速は0.2～0.4knであるが、海流の影響を受けて1日中ほとんどが北流であり、南流は、高高潮の3～4時間後に2～3時間見られるにすぎない。九頭竜川河口付近では、上層は常に下流へ向かって流れるが、下層では上げ(下げ)潮時には上(下)流へ流れる。すなわち、上げ潮時には上下両層の流向が反対となる。

海難 三国区では西～北北西風の強吹時や連吹時には、波浪やうねりが防波堤を越えて侵入し、川の流れ(流速約1.5kn)と衝突して複雑な波を生じ、小型船が遭難した例がある。

がある。伏木指向灯（白光、227.9° を中心とする幅3°）は可航水路を示している。

架橋 小矢部川河口付近に伏木万葉大橋（36° 47.3′ N 132° 03.5′ E、高さ約9m）がある。

入港上の注意 伏木航路両側に大型定置網が多数設置されており、大型船が航行できる場所が限られている。可航幅を示すための指向灯が設置されているので、この範囲から逸脱しないよう注意が必要である。

また、小矢部川の東側にある庄川を小矢部川と誤認しないようにすること。小矢部川上流からの流砂により、水深が減少する。

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
左岸1～2号岸壁	36° 47.6′ N 137° 03.8′ E	310	5～7.5	10,000×2	
左岸3～4号岸壁	36° 47.5′ N 137° 03.6′ E	370	2.5～4.5	15,000×2	
左岸5号岸壁	36° 47.4′ N 137° 03.5′ E	90	2	1,000×1	
右岸1～2号岸壁	36° 47.5′ N 137° 04.0′ E	440	3～5	5,000×4	
右岸3～4号岸壁	36° 47.5′ N 137° 03.8′ E	370	3～4.5	15,000×2	クレーン1基
右岸5号岸壁	36° 47.4′ N 137° 03.7′ E	130	2.5	5,000×1	
万葉1号岸壁	37° 48.1′ N 137° 04.0′ E	130	6.5	5,000×1	
万葉2号岸壁		190	10	15,000×1	
万葉3号岸壁	37° 48.2′ N 137° 03.9′ E	280	12～12.5	30,000×1	ガントリークレーン1基。 耐震岸壁

最大入港船舶 2015年5月18日、旅客船ボイジャー・オブ・ザ・シーズ（138,194t、喫水9.1m）が万葉3号岸壁に着岸した。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
伏木海上保安部（港長）	0766-44-0196	新潟検疫所伏木富山出張所 （富山空港出張所へ連絡）	076-428-4160
大阪税関伏木税関支署	0766-44-6173	名古屋植物防疫所伏木富山支所	0766-44-0954
北陸信越運輸局富山運輸支局	0766-44-1367	富山県伏木港事務所	0766-44-0277

通船 通船がある。

補給 清水の補給ができる。給水船及び給油船がある。

修理 小造船所がある。

廃油処理施設

事業者名	申込先	利用時間	処理する廃油の種類	
			廃重質油	廃軽質油
㈱ダイセキ	北陸事業所 076-275-6585	0900～1600	水バラスト、スロップオイル、コレクトオイル、タンク洗浄水、ビルジ、スラッジ、その他	水バラスト、タンク洗浄水、スロップオイル、スラッジ、その他

医療施設

名称	電話番号	備考
高岡市民病院	0766-23-0204	
高岡ふしき病院	0766-44-1181	

へ開いている。港奥東側の魚市場前面に-4.5m岸壁（延長 175m）があり、同岸壁南方に突堤に囲まれた小さな船だまりがある。また、突堤西側に-4.5m岸壁（長さ 60m）、同突堤南方に-3m岸壁がある。

生地鼻～直江津港（海図W120）

概要 生地鼻～宮崎鼻間の約 10Mは、黒部川下流の扇状地で、海岸は小石や卵石が散在し、断続する松林の後方は広大な耕地である。宮崎鼻～姫川河口（姫川港の西側）間の約 13Mの海岸は低く、急深で、後方の高地は陸側の山脈に連なる。姫川河口～直江津港間の約 22Mもほぼ同様で、ほぼ中央に鳥ヶ首岬が突出する。姫川河口～鳥ヶ首岬間のほぼ中央に**能生港**（37° 06.9′ N 138° 00.0′ E）（港則法適用港）（JP NOU）がある。

潮流 黒部川河口付近では、上げ（下げ）潮流は北東方（南西方）へ流れるようであるが、流速は 0.5kn 以下である。鳥ヶ首岬の沖合には、まれに流速 1kn を超える東流がある。

目標

地物名	概 位	備 考
宮 崎 鼻	36° 58.3′ N 137° 35.2′ E	丘陵が海側からしだいに高くなって、陸側の高い山脈に連なっている。鼻上及び北方の防波堤に灯台がある。
黒 姫 山	36° 58.6′ N 137° 47.4′ E	高さ 1,222m、円すい形
鳥ヶ首岬	37° 10.3′ N 138° 05.8′ E	岬端は高くないが、陸側は急に高くなり、高さ 300mを越え、頂部には、風力タービンが 2 基ある。鼻上に灯台がある。
風力タービン	36° 57.8′ N 137° 30.5′ E	1 基、36-57.3′ N 37-29.9′ E の海岸線まで海底電力線が敷設されている。
風力タービン	36° 58.1′ N 137° 31.5′ E	2 基、各風力タービン間に海底電力線が敷設されている。

鳥ヶ首岬の陸側の山脈は、**青田難波山**（高さ 949m）、**妙高山**（高さ 2,446m）、**火打山**（高さ 2,462m）、**焼山**（高さ 2,400m）がそびえ、5、6 月ごろは、雲や霧が山並みの全部又は一部を覆い、夏には、白雲が山頂を覆っていることが多い。しかし、日没に近づくと雲、霧は晴れることがある。

姫 川 港（37° 03.0′ N 137° 51.2′ E）（海図W1027）（JP HMK）



（2020 年 4 月撮影）

港種 港則法適用港、開港、植物検疫の港

直江津港 (37° 12.6' N 138° 15.8' E) (海図W1182) (JP NAO)



(2016年9月撮影)

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物検疫の港、重要港湾

概要 鳥ヶ首岬の東方約 7.5Mの関川河口付近にある港で、臨海工業地帯を成す。港区東側埋立地に火力発電所及びLNG受入基地がある。~~東防波堤西端から一部撤去工事が行われている。~~

海難 北西風の強吹時、沖合の錨泊船が走錨して、西防波堤に乗り揚げたことがある。

目標

地物名	概位	備考
煙突	37° 12.4' N 138° 16.8' E	高さ156m (銀色)
タンク群	37° 11.6' N 138° 15.7' E	薄緑色、多数あり
風力タービン	37° 11.2' N 138° 15.3' E	高さ57m、白色

障害物 防砂堤北端の南方約 300m (37° 11.8' N 138° 16.0' E) にコンクリートブロック (水深 5m) が沈んでいる。

水先 水先法という水先区ではないが、新潟水先区水先人会が要請に応じる。(第1編総記 第6章水先参照)

航行制限 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー (タンク船を含む) から 30m以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間においても容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

錨地 一般に大型船は、防波堤外に錨泊する。関川河口の北西方約 2,300mの検疫錨地付近 (水深 20m前後) は、底質砂泥で錨かきが良い。

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
危険物1号岸壁	37° 11.7' N 138° 15.5' E	90	6~10	5,000×1	
危険物2号岸壁	37° 11.7' N 138° 15.6' E	130	5.5	5,000×1	
危険物3号岸壁	37° 11.8' N 138° 15.8' E	130	6.5~7.5	5,000×1	

東ふ頭	1号岸壁	37° 11.4' N 138° 15.4' E	130	9.5	5,000×1	
	2号岸壁		240	8~10.5	15,000×1	
	3号岸壁	37° 11.5' N 138° 15.4' E	185	8~10	15,000×1	
	4号岸壁	37° 11.6' N 138° 15.5' E	170	10	12,000×1	ガントリークレーン、耐震岸壁
	5号岸壁	37° 11.7' N 138° 15.7' E	130	6	5,000×1	危険物用
	漁港区岸壁	37° 11.8' N 138° 16.0' E	385	4.5~7	256t×1	
中央ふ頭	1号岸壁	37° 11.1' N 138° 15.1' E	130	4.5~5	5,000×1	
	2号岸壁	37° 11.2' N 138° 15.0' E	185	8~8.5	15,000×1	
	鉱産品岸壁	37° 11.4' N 138° 15.2' E	270	11.5~13	50,000×1	
	木材岸壁	37° 11.3' N 138° 15.3' E	185	8~10	15,000×1	
内貿ふ頭 北岸壁	2号	37° 11.1' N 138° 15.2' E	60	3.5~4.5	700×1	
	3号	37° 11.1' N 138° 15.3' E	120	2.5~4	700×1	
内貿ふ頭 南岸壁	1号	37° 11.0' N 138° 15.1' E	200	7.5~9.5	6,000t×1	佐渡汽船用、耐震岸壁
	3号	37° 11.0' N 138° 15.2' E	75	4.5	700×1	
	4号	37° 11.0' N 138° 15.2' E	120	4~4.5	700×1	
	5号	37° 11.0' N 138° 15.3' E	60	3	700×1	
西ふ頭	1号	37° 11.0' N 138° 14.9' E	174	7~8.5	15,000×1	アンローダ1基
	2号	37° 11.1' N 138° 14.9' E	185	7.5~8.5	15,000×1	

最大入港船舶 2018年10月31日、LNG船 PACIFIC BREEZE (144,978 t、喫水 12.2m) が JERA 上越火力発電所 LNG 受入栈橋に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、直江津港船舶津波・台風等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合せ先：上越海上保安署）。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
上越海上保安署（港長）	025-543-4118	新潟検疫所直江津出張所	新潟空港出張所 025-275-4615 へ連絡
東京税関新潟税関支署直江津出張所	025-543-2388		
横浜植物防疫所新潟支所直江津出張所	025-543-0648	新潟県上越地域振興局 直江津港湾事務所	025-543-4167

引船 引船がある。

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

修理 修理所はあるが、上架施設はない。

医療施設

名称	電話番号	備考
上越総合病院	025-524-3000	
新潟労災病院	025-543-3123	

海上交通 小木港（佐渡島）との間にジェットfoilカーフェリー（2,486 t）便がある。（冬季運休）

廃油処理施設

事業者名	申込先	利用時間	処理する廃油の種類	
			廃重質油	廃軽質油
成沢製油(株)	025-275-1311	0830～1700	水バラスト、タンク洗浄水、ビルジ	水バラスト、タンク洗浄水、スラッジ
青木環境事業(株)	025-255-3360	0800～1700	水バラスト、スロップオイル、コレクトオイル、タンク洗浄水、ビルジ、スラッジ、その他	水バラスト、タンク洗浄水、スロップオイル、スラッジ、その他

医療施設

名称	電話番号	備考
新潟臨港病院	025-274-5331	
新潟万代病院	025-244-4700	

海上交通 両津港 {佐渡島} との間にカーフェリー便 (5,862 t 等) 及びジェットfoil便がある。敦賀港、秋田船川港 {秋田区}、苫小牧港及び小樽港との間には、カーフェリー便 (18,229 t 等) がある。

東区及び付近 (海図W1155^B)

(2020年4月撮影)

目標

地物名	概位	備考
煙突	37° 59.9' N 139° 14.5' E	火力発電所構内に4基、高さ165m、210m、209m、208m、白色閃光灯付
タンク群	38° 00.0' N 139° 14.1' E	石油備蓄用、銀色、多数あり、顕著

海底管 東区中央ふ頭東岸壁かMGCターミナル新潟東港岸壁に至る間にガス、油の海底管(37° 59.4' N 139° 13.4' E)がある。また、岩船港沖石油掘削塔(38° 08.0' N 139° 20.3' E)(白灯がある)から西防波堤基部西側に至る間に海底管がある。

沖合（約2M）まで泥水が流れ出し、北側に圧流される。

また、冬季の西寄りの季節風が強い場合は、北港地区入港時は西寄りの風浪により、陸岸に圧流されるので警戒を要し、また1区、2区入港時は後方より風波を受けるため、保針には十分注意が必要である。特に本港地区北防波堤灯台付近の第2区入口通過時の保針には注意を要する。

なお、夏から秋にかけて第2区入口付近ではプレジャーボートや遊漁船の通航が多いので注意を要する。

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考	
高砂	第1号岸壁	38° 57.1' N 139° 49.0' E	152	13.5	50,000×1	上屋がある。
	第2号岸壁	38° 57.0' N 139° 49.2' E	280	14	50,000×1	上屋がある。
古湊 ふ頭	第1号岸壁	38° 57.2' N 139° 49.7' E	270	13	50,000×1	
	第2号岸壁		185	10	15,000×1	
	第3号岸壁		185	8.5~9.5	15,000×1	
古湊係船杭		38° 57.3' N 139° 50.0' E	—	5~8	15,000×1	南側に貯木場がある。
宮海	第2号岸壁	38° 57.6' N 139° 50.2' E	170	9.5	10,000×1	耐震岸壁
	第3号岸壁		130	6.5	5,000×1	上屋がある。
	第4号岸壁		130	6~7	5,000×1	
	第5号岸壁		130	5~6	5,000×1	
大浜 ふ頭	第1岸壁	38° 55.6' N 139° 48.9' E	330	6.5~8.5	10,000×2	上屋がある。
	第2岸壁	38° 55.6' N 139° 49.0' E	90	4	2,000×1	
東 ふ 頭	新町岸壁	38° 55.1' N 139° 49.5' E	260	6~6.5	5,000×2	
	船場町岸壁	38° 55.0' N 139° 49.6' E	360	4~6	2,000×4	
	船場町第2岸壁	38° 54.9' N 139° 49.7' E	195	3~3.5	700×3	
西ふ頭岸壁		38° 55.5' N 139° 49.1' E	185	7~8.5	15,000×1	
			53	3.5	700×1	
			180	4.5	2,000×2	上屋がある。
袖岡ふ頭岸壁		38° 54.9' N 139° 49.5' E	390	2~6.5	5,000×3	
水産	第1岸壁	38° 54.8' N 139° 49.8' E	140	2.5~3.5	150 t	魚市場がある。
	第2岸壁	38° 54.7' N 139° 49.7' E	196	2.5~4	300 t	
			180	3~4.5	150 t	南東側

水先 酒田水先区水先人会に要請する。（第1編総記 第6章水先参照）

最大入港船舶 2019年9月16日、旅客船 MSC SPLENDIDA（137,936 t、喫水8.29m）が古湊ふ頭1号岸壁に着岸した。

錨地 第1区及び第2区では岸壁係留を原則とする。

危険物積載船が錨泊するときは、第3区に錨泊しなければならない。

檢疫錨地は、第2北防波堤の北西方約0.5Mにあるが、波浪の影響を受けるので錨地としてはよくない。

錨泊上の注意 底質がよくないので、走錨に注意を要する。

特に冬季、西寄りの暴風が予想される場合には、港及び周辺海域は錨泊に適さないため、酒田及び秋田海

139° 54.5′ E) (港則法適用港) (JP KNO)、平沢港 (39° 17.9′ N 139° 57.5′ E) (港則法適用港) (JP HSW)、本荘港 (39° 23.4′ N 140° 00.4′ E) (港則法適用港) (JP HON)、秋田船川港がある。

秋田船川港から入道埼までの海岸は、西方へ突出する男鹿半島の南、西岸に当たり、椿漁港、戸賀港 (39° 57.2′ N 139° 42.7′ E : 海図W1185) (港則法適用港) (JP TOJ) がある。この区間は、冬季、西寄りの季節風に対する遮蔽物がなく、乗揚げ海難が発生し、錨泊に適さないため、酒田及び秋田海上保安部では、沿岸海域での錨泊自粛を指導している。

目標

地物名	概 位	備 考
三 埼	39° 07.1′ N 139° 52.2′ E	灯台がある。
無 線 塔	39° 07.2′ N 139° 53.6′ E	高さ地上 20m、パラボラアンテナ付
鳥 海 山	39° 06.0′ N 140° 02.9′ E	高さ 2,236m、南方からは 3 頂に、北方からは 2 頂に見える円すい形の峰で、沖合い遠距離から見える。頂は雲に隠れていることが多い。8、9 月を除き雪の消えることがない。
飛 島	39° 12.0′ N 139° 33.4′ E	平らで低い島、北部の高森山の頂に灯台がある。周囲は砂礫浜で諸岩があり、特に島の北端と南西端とに多い
無 線 塔	39° 39.9′ N 140° 04.4′ E	6 基、大森山の山頂、赤灯を点ずる。
寒 風 山	39° 56.0′ N 139° 52.5′ E	高さ 355m、顕著な展望台がある。八郎潟からしだいに高く 3 頂を成し、東頂が最も高い。西方からは見えない。
鶺 鴒 埼	39° 51.5′ N 139° 49.2′ E	高さ 32m、灯台がある。
塩 瀬 埼	39° 51.5′ N 139° 45.4′ E	台形の埼で、灯台がある。
本 山	39° 54.4′ N 139° 45.2′ E	男鹿半島の最高峰で高さ 715m、レーダドーム 1 基があり顕著
入 道 埼	40° 00.3′ N 139° 42.1′ E	険しい岬角、灯台 (黒白横線塗) がある。
水 島	40° 00.8′ N 139° 42.0′ E	南北の長さ約 550m、高さ 3.7m の岩で西寄りの強風時に激しく破浪する。付近は常に北流があり、北寄りの風が強いと破浪が激しくなる。水島中央部にある白塗柱は、入道埼灯台に付設の照射灯で照らされる。

秋田船川港 (39° 51.3′ N 139° 56.3′ E) (海図W147、W148、W1192) (JP AFG)

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物検疫の港、重要港湾

概要 男鹿半島の基部南東側にある旧秋田港と旧船川港とが合併した港で、港内は秋田区と船川区に分かれている。秋田区は亜鉛製錬所、火力発電所、製紙工場等が、また船川区には石油備蓄基地及び木材関連工場がそれぞれ立地し、両区とも多数のタンカー及び木材船が出入港している。**なお、秋田区では、令和4年完成予定の洋上風力発電施設が建設中である着床式洋上風力発電所(風力タービン)が 13 基(黄灯付)設置されている。**

冬季の季節風時には、秋田区第 1 区内への船舶の出入港は容易ではないが、同区内は四方の風に対して安全である。船川区は東方へ開いており、比較的入出港は容易である。

気象 冬季の季節風は強烈で、3~4 日間にわたって吹き続けることが多い。

海難 特に冬季、西~北西の風が強くとくときには、波高が 7~8m に達することがあり、入港は困難となる。

このようなときに、港外の船舶は錨鎖が切断されたり、圧流されて乗り揚げたりした例がある。

目標

地物名	概位	備考
煙突	39° 47.1' N 140° 02.9' E	高さ189m、赤白塗、火力発電所構内
展望塔	39° 45.2' N 140° 03.7' E	高さ143m、セリオン
煙突	39° 44.6' N 140° 03.5' E	高さ101m、赤白塗、製紙工場構内

針路法 北方から入港する場合は、塩瀬崎の南方約2Mから針路105°で進み、秋田区の火力発電所にある煙突（目標の項参照）を095°に向首して、第1区入口に接近する。

南方から入港する場合は、針路000°で寒風山に向首して進み、秋田区に近づくころ火力発電所の煙突が見えてくるので、それを095°に見て変針、以後、同煙突に向首し第1区入口に接近する。

入口に近づいたならば、第2南防波堤先端部及び新北防波堤北西方約0.8Mから約6.1M付近の定置網（黄色浮標（黄灯付）4個付）に注意して、製紙工場の煙突（目標の項参照）を目標にして南、北両防波堤の中央を進み、掘下げ水路を通過して岸壁へ向かう。

入港上の注意 北西風の強吹時の入港は危険であり、大雨の後には、入口付近で約2knの外方へ向かう流れがあるという。夜間は、旧北防波堤先端の標識灯（39° 45.7' N 140° 02.6' E）（緑色）は、光力が弱く見えにくいので注意を要する。

港則

	信号	目的地に関する記号	信文
進路表示信号（平成7年海上保安庁告示第35号）及び船舶自動識別装置の目的地に関する記号（平成22年海上保安庁告示第94号）	2代・N	N	秋田北防波堤灯台から旧北防波堤先端まで引いた線以北の係留施設に向かって航行する。
	2代・E	E	旧北防波堤先端から99°に陸岸まで引いた線（以下「A線」という。）以北の係留施設に向かって航行する。
	2代・E・N	EN	ENEOS 栈橋に向かって航行する。
	2代・E・C	EC	A線の南側の旧雄物川東側の中島岸壁から下浜ふ頭に至る間の係留施設に向かって航行する。
	2代・E・S	ES	A線の南側の旧雄物川東側の寺内ふ頭以南の係留施設に向かって航行する。
	2代・W	W	A線の南側の旧雄物川西側の係留施設に向かって航行する。

港湾施設

名称	概位	長さ（約m）	水深（約m）	係船能力（D/W×隻）	備考	
外港-13m 1号岸壁	39° 45.9' N 140° 02.4' E	270	12.5	50,000×1	クレーン2基、上屋がある	
外港-13m 2号岸壁	39° 46.1' N 140° 02.3' E	260	13	40,000×1		
飯島-11m 岸壁	39° 46.9' N 140° 02.1' E	190	9.5~10.5	18,000×1		
飯島-7.5m 岸壁	39° 46.9' N 140° 02.2' E	260	3.5~7	5,000×2		
飯島-5m 岸壁	39° 47.2' N 140° 02.2' E	130	4~4.5	1,000×2		
大浜	-4.5m 1号岸壁	39° 46.2' N 140° 03.0' E	60	3	700×1	
	-4.5m 2号岸壁		60	3	700×1	
	-10m 1号岸壁	39° 46.4' N 140° 03.0' E	185	10	15,000×1	
	-10m 2号岸壁	39° 46.2' N 140° 02.9' E	185	9~9.5	15,000×1	
	-10m 3号岸壁	39° 46.0' N 140° 02.9' E	185	9~9.5	15,000×1	

中島	1号岸壁	39° 45.3' N 140° 03.5' E	161	8.5	10,000×1	
	2号岸壁	39° 45.4' N 140° 03.4' E	185	9.5	15,000×1	
	3号岸壁	39° 45.5' N 140° 03.3' E	185	9.5	15,000×1	
北ふ頭	A岸壁	39° 45.3' N 140° 03.5' E	122	6~7.5	5,000×1	
	B岸壁	39° 45.3' N 140° 03.6' E	155	6~6.5	5,000×1	
南ふ頭	C岸壁	39° 45.2' N 140° 03.6' E	155	4.5~5	2,000×1	
	D岸壁	39° 45.1' N 140° 03.6' E	90	6	2,000×1	
下浜 - 5m岸壁		39° 45.0' N 140° 03.8' E	345	3.5~5	1,000×4	魚市場がある
寺内ふ頭岸壁		39° 44.7' N 140° 04.0' E	195	6~7	5,000×2	
向浜	-7.5m 1号岸壁	39° 44.9' N 140° 03.7' E	130	7	5,000×1	
	-7.5m 2号岸壁		130		5,000×1	
	-10m 1号岸壁	39° 45.0' N 140° 03.4' E	186	9	15,000×1	
	-10m 2号岸壁	39° 45.1' N 140° 03.3' E	186	8~9	15,000×1	
	-10m 3号岸壁	39° 45.2' N 140° 03.2' E	185	8.5~10	15,000×1	
	-12m岸壁	39° 45.3' N 140° 03.1' E	240	12	30,000×1	

最大入港船舶 2018年10月24日、旅客船 MSC SPLENDIDA (137,936 t、喫水 8.29m) が中島2号・3号岸壁に着岸した。

錨地 危険物積載船が錨泊するときは、第2区に錨泊しなければならない。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
秋田海上保安部(港長)	018-845-1624	横浜植物防疫所新潟支所秋田出張所	018-845-1411
函館税関秋田船川税関支署	018-845-0735	仙台検疫所秋田船川出張所	018-846-8280
東北運輸局秋田運輸支局	018-863-5811	秋田県秋田港湾事務所	018-845-2021
仙台出入国在留管理局秋田出張所	018-895-5221		

引船 引船がある。

補給 清水、燃料油の補給ができる。給油船がある。

医療施設

名称	電話番号	備考
市立秋田総合病院	018-823-4171	
秋田厚生医療センター	018-880-3000	

海上交通 敦賀港・新潟港及び苫小牧港との間にカーフェリー便(18,229 t)がある。

船 川 区 (39° 52.8' N 139° 51.9' E) (海図W147)



(2020年7月撮影)

概要 船川区は、第1区～第3区に分かれており、水深は20m以下で不規則である。底質は、おおむね軟岩で港奥一帯及び港の南西部に浅礁が多数ある。

八郎潟は、男鹿半島の基部東側にある我が国第2の湖であったが、湖面の約8割が干拓された。船越水道(幅約390m、水深2～3m)によって、船川区に通じている。

目標

地物名	概位	備考
タンク群	39° 52.0' N 139° 51.0' E	白色、石油備蓄基地内
無線塔	39° 52.9' N 139° 50.8' E	高さ60m、パラボラアンテナ付
生鼻《オエバナ》埼	39° 53.9' N 139° 53.5' E	三角形のがけ、白色

入港上の注意 西方から入港する場合、陸岸を離し、赤根などの險礁及び根島南側から南方約1.2Mの間の定置網(4月～11月)に注意して、赤根南方にある灯浮標の南方を通り、南方からは船川防波堤灯台に近づき入港する。

港湾施設

名称		概位	長さ(約m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考
公共ふ頭	1～2号岸壁	39° 52.5' N 139° 51.3' E (西から東への順)	260	6.5	5,000×2	油類専用船等
	3号岸壁		145	6.5	7,000×1	木材
	4号岸壁		185	8～9.5	15,000×1	木材・石材専用船等

シーバース 秋田石油備蓄基地南東方約0.5Mに、秋田石油備蓄基地シーバース(39° 51.4' N 139° 51.6' E)(係船能力180,000D/W×1隻、シーバース灯、周囲に浮沈式オイルフェンスが設置)がある。

最大入港船舶 2013年6月4日、タンカー かいもん丸(120,015t、喫水13.56m)が、石油備蓄基地シーバースに着棧した。

錨地 船川防波堤灯台の北方約500mの水深8m、底質泥の所は錨かきが良い。

検疫錨地は、船川防波堤灯台の南東方1.5M付近にある。危険物積載船が錨泊するときは、第2区又は第3区に錨泊しなければならない。

能代港 (40° 12.4' N 139° 59.1' E) (海図W1292) (JP NSR)



(2020年7月撮影)

港種 港則法適用港、開港、出入国港、植物検疫の港、重要港湾

概要 入道崎の北東方約19Mにある米代川河口の南側にある港である。以前は、米代川の河口を港として利用していたが、度重なる洪水による土砂の堆積で港の機能を発揮できなかった。このため、米代川と港を分離した掘込式港湾として整備し、主に木材関連工場が立地している。~~なお、令和4年完成予定の洋上風力発電施設が建設中である着床式洋上風力発電所(風力タービン)が20基(黄灯付)設置されている。~~

目標

地物名	概位	備考
煙突	40° 11.5' N 139° 59.4' E	高さ168m、青白塗
サイロ	40° 12.5' N 140° 00.1' E	灰色、セメント用
展望台	40° 12.5' N 139° 59.9' E	高さ27m、白色

水先 水先法という水先区ではないが、秋田船川水先区水先人会が要請に応じる(第1編総記 第6章水先参照)。

入港上の注意 北から北西風が強吹する時は、港口付近において風浪、うねりを真横から船尾に受けるため保針が困難である。

港湾施設

地物名	概位	長さ(約m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考
大森岸壁	40° 12.7' N 139° 59.6' E	260	13	40,000×1	
中島1号岸壁	40° 13.1' N 140° 00.7' E	130	7.5	5,000×1	
中島2号岸壁	40° 13.1' N 140° 00.8' E	130	7.5	5,000×1	
15,000トン岸壁	40° 12.7' N 140° 00.2' E	185	10	15,000×1	

上表のほか、外港南防波堤基部北側に揚炭棧橋(係船能力60,000D/W×1隻)などがある。

最大入港船舶 2000年11月23日、鉾石運搬船 能代丸(53,935t、喫水12.58m)が、東北電力能代火

鱸作埼～龍飛埼(海図W1195)

概要 鱸作埼から北東方へ約45Mで、津軽海峡西口の龍飛埼に達する。

鱸作埼～大戸瀬埼間の約13Mは、山地が海岸に迫り南部に深浦港がある。

大戸瀬埼～小泊岬(権現埼)間の約24Mは、弓形の開湾で砂浜の所が多い。また距岸1M前後で、水深20m以上となる。その南部に**津軽港**(40° 47.7' N 140° 14.4' E)、**鱒ヶ沢港**(40° 47.1' N 140° 12.8' E : 海図W1196)(港則法適用港)(JP AJK)がある。

小泊岬～龍飛埼間の約8Mは、高地が続き南部に小泊港がある。

この区域は、冬季、西寄りの季節風に対する遮蔽物がなく、乗揚げ海難が発生し、錨泊に適さないため、青森海上保安部では、沿岸海域での錨泊自粛を指導している。

潮流 小泊岬の沖合では、上げ(下げ)潮流は北方(南方)へ流れ、流速は微弱である。

目標

地物名	概位	備考
鳥居埼	40° 44.6' N 140° 00.0' E	遠望顕著、埼に接して二つの小島がある。灯台がある。
大戸瀬埼	40° 46.0' N 140° 03.4' E	埼上に灯台がある。
岩木山	40° 39.4' N 140° 18.2' E	高さ1,625m、通称 津軽富士 と呼ぶ、山頂は三つに分かれ、中央が最高峰
小泊岬	41° 07.5' N 140° 15.0' E	津軽海峡西口の 外方南11M にある顕著な岬。奇形で龍飛埼まで続く高地の起点であるから、見分けやすい。西側は赤色のがけで、南・北両端に灯台がある。埼の外端近くに樹木の茂った円形の山がある。
龍飛埼	41° 15.5' N 140° 20.5' E	津軽海峡の西口南角、灯台がある。

深浦港(40° 38.7' N 139° 55.6' E)(海図W1196) (JP FKK)



(2020年8月撮影)

港種 港則法適用港

概要 鱸作埼の北東方約4Mの小さな湾入部にある港で避難港でもある。

水先 水先法という水先区ではないが、水先類似行為者がいる。

港湾施設

名称		概位	長さ (約 m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
堤 ふ頭	-10m岸壁	40° 50.0' N 140° 45.5' E	185	7~9	15,000×1	
	-7.5m岸壁	40° 49.9' N 140° 45.4' E	263	5.5~7.5	5,000×2	
浜町 ふ頭	-9m東岸壁	40° 49.9' N 140° 45.3' E	179	4.5~8	8,000×1	南部は浅い。
	-7.5m岸壁		132	6.5~8	5,000×1	ふ頭の北側
本港 地区	-6.5m岸壁	40° 49.9' N 140° 44.2' E	100	5	2,000×2	八甲田丸北東隣
中央 ふ頭	-7.5m岸壁	40° 49.8' N 140° 44.9' E	125	6~6.5	5,000×1	
	-5.5m岸壁	40° 49.8' N 140° 44.7' E	64	3~4	2,000×1	
新中央ふ頭-10m岸壁		40° 50.0' N 140° 44.8' E	360	10	30,000t×1	国際ふ頭施設、 耐震岸壁
沖館 ふ頭	-13m岸壁	40° 50.3' N 140° 43.5' E	270	12	40,000×1	国際ふ頭施設
	-10m岸壁	40° 50.4' N 140° 43.4' E	185	9	10,000×1	国際ふ頭施設
	-7.5m岸壁	40° 50.5' N 140° 43.3' E	260	7.5	5,000×2	
	-7.5m耐震岸壁	40° 50.6' N 140° 43.2' E	185	7.5	7,000t×1	耐震強化岸壁
フェリーふ頭第1号棧橋		40° 50.8' N 140° 43.0' E	200	6.5~7	6,000t×1	
フェリーふ頭棧橋		40° 50.7' N 140° 43.1' E	290	6	3,500t×2	
木材港-4.5m岸壁		40° 51.0' N 140° 42.3' E	420	4.5	700t×4	

最大入港船舶 2018年4月30日、旅客船 MSC SPLENDIDA (137,936 t、喫水 8.68m) が第2区の沖館ふ頭に着岸した。

錨地 検疫錨地は航路北口の北東方にある。危険物積載船が錨泊するときは、第3区に錨泊しなければならない。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、青森港安全推進協議会 青森港における船舶津波・台風等対策部会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合せ先：青森海上保安部）。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
青森海上保安部（港長）	017-734-2422	横浜植物防疫所塩釜支所弘前出張所	0172-36-0789
函館税関青森税関支署	017-734-0780	仙台出入国在留管理局青森出張所	017-777-2939
東北運輸局青森運輸支局	017-739-8112	青森県東青地域県民局地域整備部 青森港管理所	017-734-4101
仙台検疫所青森出張所	017-722-7687		

引船 引き船がある。

補給 主な係船施設で給水ができ、給油船がある。

修理

造船所名	電話番号	備考
(株)北浜造船鉄工	017-742-3426	